

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	1473300612
法人名	特定非営利活動法人 UFO(友宝)
事業所名	グループホーム友宝
訪問調査日	平成20年10月8日
評価確定日	平成20年11月26日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1473300612
法人名	特定非営利活動法人 UFO(友宝)
事業所名	グループホーム友宝
所在地	〒226-0023 横浜市緑区小山町292-10 (電話) 045-929-5120

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成20年10月8日	評価確定日	平成20年11月26日

## 【情報提供票より】(20年8月9日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	8人, 非常勤 10人, 常勤換算 11.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造		
	2階建ての	1階	～ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	61,400 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	(有) 126,400 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 126,400円) 無	有りの場合 償却の有無	有/〇無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

### (4) 利用者の概要(8月9日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	6名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	5名		
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 85歳	最低	74歳	最高	99歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	つづき病院、横浜新緑総合病院、みどり野診療所、ドルチェデンタルクリニック
---------	--------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

◇事業所はJR横浜線中山駅からバスで10分、バス停から徒歩1分に位置する住宅地で、近くに雑木林があり静かな落ち着いた環境下にある。
◇医療連携体制加算事業所として医師と密接な連携を持ち、日常的に看護・介護体制ができており、利用者が重度化した場合も対応できる体制にある。
◇運営推進会議を活用し、小山町および隣接する北八朔町の両町内会とは、夏祭りや各種行事への参加など良好な関係を築いている。
◇職員教育面では各種研修参加を積極的にすすめ、事業所としてのサービスのレベルアップを図っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所独自の理念づくりの取り組み: より一層地域との触れあいを重視したものへの作り替えを行っており、間もなく完成する予定である。</li> <li>・職員研修の充実: 新人、中堅、管理者各研修のあり方を見直し、年間計画を立て、事業所内研修、外部研修に業務として参加するようにした。</li> <li>・地域との連携: 夏祭りや地域各種行事に参加するなど、地域との連携を深めた。</li> </ul>
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価には全職員が参加し、それを基に管理者が素案を作成し、カンファレンス、合同会議で検討を繰り返した上でまとめた。この結果、自己評価票作成が職員自身、各自の業務を見直す機会となった。</li> </ul>
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営推進会議を自治会長、老人会長、民生委員、家族代表、事業所代表で構成し3か月に1度開催している。</li> <li>・運営推進会議出席の地域代表者が事業所の運営に協力的で、結果として事業所の夏祭りや各種行事での交流、幼稚園、保育園との交流等、地域との関わりが一段と深まった。</li> </ul>
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族への報告は、毎月1回、利用者の近況をお知らせする手紙を送付することや家族来訪時の面談、または必要に応じて行う電話連絡時などに行っており、その時に家族の意見・要望も聞いている。</li> <li>・家族から聴いた内容はノートに記録し、全職員がその情報を共有して日常の活動に反映するように努力している。</li> </ul>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路を挟んでの小山町と北八朔町の両町内と交流を深めている。小山町では自治会に加入し、夏祭りや各種行事に招かれ参加している。また、北八朔町にある市営住宅の集会室を借りて5周年記念行事を実施したり、隣の保育園とも交流して地域との連携を深めている。</li> </ul>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
		<b>○地域密着型サービスとしての理念</b>			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・開設当初職員参加で作成した理念を、より一層地域との触れあいを重視したものに作り替えるために、全職員で勉強会を繰り返し最終段階に達している。	○	・新しい理念の早期完成を期待します。
		<b>○理念の共有と日々の取り組み</b>			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・新理念の作成作業の過程で、新しい理念をどのように介護現場で実践してゆくかについて学びあっている。 ・この学びを通して、日々の介護支援のあり方について、職員に新たな気づきをもたらされている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
		<b>○地域とのつきあい</b>			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・当事業所は、小山町と北八朔町の境界に立地し、小山町では自治会に加入し夏祭りや各種行事に招かれ参加している。 ・一方の北八朔町では、市営住宅の集会室を借りて敬老会を実施したり、近隣の保育園とも交流するなど両町内との連携を深めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
		<b>○評価の意義の理解と活用</b>			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価票作成に全職員が参加し、それを基に管理者が素案を作成して、カンファレンス会議、合同会議で検討を繰り返しまとめた。結果として職員が自分の業務を見直す機会となった。 ・この取り組みを通して、職員の、自己評価実施の意義についての理解は深まった。		
		<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・自治会長、老人会長、民生委員、家族代表、事業所代表で構成し3か月に1度開催している。 ・会議に集まる地域の代表者が当事業所の運営に協力的で、夏祭りや各種行事での交流や、幼稚園、保育園との交流等、地域との関わりが深まっている。		

グループホーム友宝

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・緑区や横浜市の担当者との日頃の接触により、制度利用または運営上の相談が気軽にできる関係ができ、当事業所のサービスの質の向上に役立っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・家族には毎月の会計報告時に、利用者の近況をお知らせする手紙を同封している。また必要に応じて随時電話連絡もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情受付窓口担当者氏名および苦情受付外部機関の窓口を、入所契約時に家族にお知らせしている。 ・家族会などのときに話しやすい雰囲気を作って積極的に意見を聞き、日常の介護サービスに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・退職者は少なく職員の定着性は高い。 ・利用者が安心して日々過ごせるように、職員のフロア間の異動も行わない方針で運営している。 ・一方では、行事、日常の散歩等でフロア間の交流を行うことにより、利用者は他フロア職員とも馴染みの関係ができている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員を初任研修、内部研修、外部研修、他事業所との交換研修等に積極的に参加させ、育成に取り組んでいる。 ・年間研修計画を立て、出席を業務扱いとして実施している。(本人の自主参加もある) ・研修結果はフロア会議で報告し、職員間で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・全国グループホーム連絡会に所属するほか、緑区・青葉区のブロック連絡会として同業者間の交流、研修に積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入所前に本人と家族に施設を見学して貰い、面接をして本人の家庭での生活状況や課題を聞き入所後の介護に備えている。 ・入所体験として、日帰り入所をしている。 ・事業所の雰囲気に馴染むまでは、声掛けの頻度を増やすなど配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・過去の生活歴などから、できる利用者には掃除、食事の準備、後片付けなどを職員と一緒にやってもらっている。 ・その他、散歩、買い物、家事や趣味のお手伝いなどの交流を通して、人生の先輩である利用者から教えられることも多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・会話の可能な利用者とは日常の会話の中で希望、意向の把握に努めている。 ・会話の難しい方に対しては、日常の生活ぶりや家族からの情報を基にして、行動、表情などから読みとるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・介護計画は担当者が利用者の現況と課題を把握したうえで、利用者および家族の意見・要望も取り入れてケアプランの原案を作成する。 ・その上で、カンファレンス会議で討議して作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・基本的には6か月毎に見直し家族に説明し、家族来訪時には承諾印をもらっている。 ・その間であっても、利用者の状況に変化がある場合は、必要に応じて随時見直している。		

グループホーム友宝

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・要望があれば、職員はかかりつけ医などの病院に同行している。 ・地域の方からの認知症ケアについての相談(電話、来訪)に応じている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・医療連携体制加算事業所として、提携医と常に連携し、利用者の健康を管理している。 ・利用者や家族の要望があれば、従来のかかりつけ医からの受診ができるようにも支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・重度化対応は、当事業所が制定した「重度化した場合における健康管理、医療連携体制に係わる指針」にに基づき家族、医師、看護師が連携して看護・介護に努めている。 ・同指針は入居時に利用者と家族に説明し同意を得ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・個人情報保護規程については入社時研修のほか、カンファレンスの場などで個人情報及びプライバシーの保護について教育している。 ・日常の介護で利用者のプライドを傷つける対応はなかった(調査当日の観察)。 ・個人情報に関する書類は事務室に施錠保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員は、できるだけ利用者のペースと希望に合わせて対応している。 ・コミュニケーションが困難な利用者にも家族から聴いた生活歴や趣味などから、表情、気配により言外の意味を汲み取って希望に沿った支援をしている。		

グループホーム友宝

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の好みを把握するほか、調理・盛り付けを工夫し、また季節感のある食材の提供に配慮している。</li> <li>・利用者の嚥下能力に合わせ、ミキサー食、ソフト食など、食べやすいようにして提供している。</li> <li>・食事では各テーブルに職員が入り、声掛けをしながら和やかに食事をし、終了後、お手伝いができる利用者は洗い物、後片付けをしている。</li> </ul>		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴は毎日でも対応できるように体制を組んでいる。入浴時間帯は原則午後1時半から5時までとしているが、希望があって職員の対応ができれば夜間も対応している。入浴を嫌う利用者にも原則として1日おきに入浴するように支援している。</li> </ul>		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の過去の生活歴や趣味から、植物の世話や草取り、編み物、散歩、ゲーム、歌、食事の手伝い、掃除、洗濯物たたみなど、一人ひとりの思いで楽しんだり、役割を果たすことができるように支援している。</li> </ul>		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お天気が良ければ毎日午前中に散歩に行き、また、職員の買い物などに一緒に行くこともある。</li> <li>・畑仕事や草取りなどは、利用者の行いたいときにやってもらっている。</li> <li>・また、家族来訪時には、家族と一緒に外出もしている。</li> </ul>		

グループホーム友宝

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険がない限り鍵をかけないケアを目標に開設以来取組んでいる。</li> <li>・現在は、不審者の侵入を避けるため玄関の内側から施錠しているが、利用者は自由に開けて外にでられる状態になっている。利用者の外出気配については職員が見守っている。</li> <li>・居室にも鍵を取り付けているが、他の利用者の入室を避けるため、夜間のみ内側から施錠する利用者もいる。</li> </ul>		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災計画に従って年3回避難訓練を実施している。</li> <li>・運営推進会議を通して、地域から災害協力支援をお願いすることについて話し合いを進めている。</li> </ul>		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養バランスを考慮して、1日30品目が摂取できるように食材調達をしている。</li> <li>・食事や水分の摂取量は個人別に記録管理をしている。水分摂取量の少ない利用者には、常温の麦茶を準備するなど工夫している。</li> </ul>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居間などの共用空間は窓からの採光が豊かで明るく、壁面は木材を多く使い、そこに季節の花や利用者の作品が展示され家庭的な雰囲気がでている。</li> <li>・居間などの温・湿度も職員がこまめに管理し、気になる光や音もなく、落ち着いて居心地良く過ごせる状況であった。</li> </ul>		



グループホーム友室

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室は、備付のロッカーがあるほかは全て利用者の使い慣れた馴染みのベッド、机、椅子などの家具・調度品や趣味の所持品が持ち込まれ、安心して過ごすことのできる個人空間となっている。</li> <li>・居室の換気や清掃も職員の支援があり、快適な状態が保たれている。</li> </ul>		

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	NPO法人友宝グループホーム友宝
(ユニット名)	そよかぜ
所在地 (県・市町村名)	横浜市緑区小山町292-10
記入者名 (管理者)	蓼沼満里子
記入日	平成20年8月16日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	重要事項説明書掲載また、相談室に掲示している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内研修を実施	○ キャッチフレーズ作りを今後実施する。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会・運営推進会議・行事の時・見学者など来訪時など、折々の機会に説明している。	
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常の散歩・買い物時に挨拶を積極的にかわしている。地元の商店を意識的に利用している。また、大家さんから差し入れがあります。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

グループホーム 友宝(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議で相談したり、他より、相談があれば積極的に応じている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は全員参加。意欲的な姿勢が評価内容から伺える。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>おおむね3ヶ月に一度の割合で実施。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>制度利用または、運営上の相談時に、区、市役所等に、行き、電話をしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在1名の入居者が後見人制度を活用している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ホーム自体が孤立化しないように、来訪者の受け入れや、地域へ、出向くことに意識的に心がけている。</p>		

グループホーム 友宝(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をかけ、対応している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの不安・意見など職員は常に耳を傾け、安心できる様本人に納得いくまで話し合ったり、カンファなどで話し合う		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム通信や個人への手紙で様子を知らせている。又、その都度。電話・訪問時・来訪していただいて、対応している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口のホーム内担当と外部機関の窓口を契約時にお知らせしている。また、集まりのあるごとに、「なんでも、お話しください。」と伝えて、話しやすい雰囲気を作っている。	○	家族会の実施
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファ、法人・ホーム管理者の合同会議などで、時間を作ったり、日々の仕事内で聞く努力をしている		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		○	比較的家族が来訪する土・日に管理者、主任等が出勤しているように調整していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	合同会議(法人・ホーム管理者)で、検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修の参加を呼びかけ、実施している	○	研修出席者の報告会の徹底を図る。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会・市・県・全国GH連絡会への出席。	○	交換研修の実施
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフを補充し有休をとりやすく努力している		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ほぼ、毎日、法人事務局長やボランティアで理事がきているので、対応できている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人家族の状態、気持ちに合わせた内容での、見学方法・面接方法をし、受け止める努力をしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	同上		

グループホーム 友宝(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の相談に応じケアマネジャーが対応している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者の状況にあわせて、見学や、訪問また、家族が初日に一泊していただいたりしている。また、ご本人の納得の元でご入居いただいています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごし、安心で楽しみ、笑顔が多く出る様、表情見ながら接している。共感したり学ぶことがいっぱいある		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている		○	家族会、行事などを通して、今迄以上、行なっていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族や本人の話を、聞き、良好な関係になるよう、対応に努めている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		○	個人差があるので、ボランティアの協力、地域の関係を蜜にし、対応していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	寂しそうににされている時は話しかけて、和ませる様に努めている。楽しい時間をつくりみんなでレクリエーション(話し合い・歌・洗濯たみ)などを行い孤独心をなくさせている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今までのところ、必要とする、経験はないが、お見舞いについて、経過の把握はしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		○	カンファ、事例検討、研修などで、本人本位の立場で、対応する大切さを、伝えていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、入居後も、センター方式のシートを活用。又、その都度、情報提供してもらっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている		○	情報の共有の方法として、記録の方法や、報告の方法の改善をする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファなどで一人ひとりについて話し合っている	○	スタッフの意見が反映されるよう、カンファの進め方を改善する。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	様子が変わる都度話し合い見直している。	○	実践はしているが、記録のところ、後手になっている。常に、ケアプランを話し合いの場に置き、話し合いをする対応にかえる。



グループホーム 友宝(そよかぜ)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、水分チェック、排便チェック、入浴チェックなど、個別対応している		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	その時に応じて、ケアプラザ・ボランティア・サークル・消防署・警察・商店などに協力をしてもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	身体機能がおちないようにリハマッサージ、音楽療法を導入したり、福祉用具の相談をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じてのお付き合いをしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を受け入れ、病院選び、救急搬送等行う。定期的に往診もお願いしている。本人の体調を常にチェックし悪ければ本人の意思によりかかりつけ医師にみせ適切に行っている		

グループホーム 友宝(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的な往診や受診をしている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションと提携し、週1回の健康管理訪看と24時間体制で相談できる体制あり。又緊急な場合の対応もできている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中から医師や家族・相談員と連絡を取り、退院後の介護がスムーズにできるように、している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師・家族・職員などと現状を三者で共有し、今後にむけて、その都度その都度話し合っている		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者の状況に応じて、その都度相談、話し合いをしている。	○	定期往診以外でも夜間・緊急時の往診ができる体制にしていく必要があるので、今後の検討課題。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族に泊まっていたり、在宅の時のケアマネに相談したり、入居前の施設の介護者に訪問して情報提供してもらったりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	きずいた時に注意をしたり、カンファの時に徹底を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思い。希望を尊重し話に傾聴し不安をのぞけるように話、支援。その都度相談にのったり声かけしている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本は、ペースにあわせたケアをしているが、スタッフの体制や、時間的などところで、そうは行かない時がある。	
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出困難な方には訪問カットをお願いしている。自分で行きたい方はいっています。モーニングケアや外出時の身だしなみなど気を使っている。	○ お化粧、マニキュア、などをする、機会や時間をつくっていききたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おいしいねと食べてもらえるゆったりと明るい雰囲気心がけている。バランスよく、色彩と味を大切にしている。食事づくり、片付けも各自にあわせて手伝ったりしてもらっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	体調にあわせて楽しみでビールを飲んでもらったり、差し入れのおやつを食べてもらったりしている。	

グループホーム 友宝(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄感覚のない方は時間の間隔や本人の様子をみながらケアを行う		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は本人の希望を聞き入れておこなっている。入浴拒否の方には、声かけの工夫をして、2～3日空かないように、している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜は本人の自由で寝る。安眠出きる様なるべく日中と夜が逆転しないよう心がける		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩・ゲーム・歌・外出デー・行事・外部から招き音楽鑑賞など行っている。個人の趣味、折り紙や囲碁もされている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる人は本人が所持。できない人はホームで預かり、本人の希望する物や必要な物を購入		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩をし、また、畑の野菜などの収穫・草取り。買い物などの支援。時にはボランティアの方をお願いしている。毎日の散歩。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出デーを設けて皆さんで出かけている。季節を取り入れる努力をしている。なかなか好評です。		

グループホーム 友宝(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話や手紙を出している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	歓迎している。日ごろの生活ぶりを伝えたりしている		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束していない		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の前は道路で危険なため鍵をかけている。(内側からは開けられる)自分のお部屋は自分でかけている入居者もある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間の場合は、転倒の心配のある方については、センサーマットをベッド下におき、対応している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室・洗面所・トイレ・リビングなどで、対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットが出た時点で話し合い、対応している。また、避難訓練等を年3回おこなっている。		

グループホーム 友宝(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急講習会の参加義務付け、外部研修・ホーム内研修で対応。	○	救急対応時の入居者の情報が確実に提供できるように工夫した。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に訓練をしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	契約時、また、その都度説明している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の健康観察のポイントの作成。異変時には、看護師、医師と相談。主任や施設長の連絡。	○	新人スタッフに研修などを通して、スキルアップに努める計画あり。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の説明書はファイルしており、いつでも確認できる		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	気になる人には細かなチェックをして早めに対応している	○	管理栄養士さん呼び、研修会をし、食生活の改善計画あり。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	散歩後のうがい、食後の口腔ケアをしている。拒否の方もいらっしゃるので、その方への対応は不十分だが、歯科往診の先生と相談しながら対応している。		

グループホーム 友宝(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態にあわせておかゆ刻み食、普通食。食べた量や気になる人は水分チェックも行う		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種をおこなっている。講習会に行きホーム内で取り決めをし実行している。	○	10月より、ノロウイルス対策施行。初任者研修で徹底を図る。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はいつも新鮮なものを使用し、安全をはかっています。衛生担当者が最終的にチェックしている(冷蔵庫の掃除・在庫確認・賞味期限の確認・まな板の使い分け・消毒)		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には花を植えて道から見える畑には野菜・花を植えている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	身近に花や飾り物、写真等置いている。季節をとり入れた絵を飾ったり、山野の草花の写真を飾ったりお雛様。こどもの日、七夕まつりなど飾りを楽しんでいる。かた、食べ物でもそれぞれの工夫をしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで皆さんが集まりテレビ談話、独りになりたい時は自室へ行かれる。足の不安定な方はリビングに居ることが多い。リビングの席などに気をつけている		

グループホーム 友宝(そよかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みや家族の方、スタッフで工夫している。使い慣れた家具・絵などを置いている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除後窓やドアを開け、暫く風通しをしている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足の不自由な人や車椅子利用者には安全のため動きやすい様広くしている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレなど、分かりやすく札を表示している、日めくりカレンダーをリビングに掛けている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは狭くあまり活用されていない。ベランダのプランターに花を上、開花するのを楽しみにしている。	○	ベランダで日光浴が気軽に車椅子の方のできるようになる。



V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム 友宝(そよかぜ)

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		<input type="radio"/> ③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている
		②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が
		②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が
		②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

**「特に力を入れている点・アピールしたい点」**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください)

最後の生活の場として、グループホームは楽しいところである、社会の片隅で小さくなっているのではなく、1つ屋根の下でのび伸びと明るく暮らしていることをアピールし地域のかたがたの元気なお年よりの方に手伝いをしていただき、一緒に話し、一緒にうたを歌ったり、踊ったり楽しむことができたらと思う。せめて半年に1回ぐらい周りの掃除のボランティアがほしい。利用者を尊重しながら、職員もケアの充実に努めながら支援する事に喜びを見出しながら日々の生活に努めています。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	NPO法人友宝グループホーム友宝
(ユニット名)	のどか
所在地 (県・市町村名)	横浜市緑区小山町292-10
記入者名 (管理者)	蓼沼満里子
記入日	平成 20 年 8 月 16 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	重要事項説明書掲載また、相談室に掲示している。	○	理念について話し合い、キャッチフレーズづくりをすすめていたが、まだ最後のまとめがまだ。今後完成させたい
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内研修を実施	○	新しい人にも理念の大切さを分かってもらいたい。そのためにもキャッチフレーズづくりも具体化をする。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会・運営推進会議・行事の時・見学者など来訪時など、折々の機会に説明している。		
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の人たちとの挨拶や、毎日の散歩中に出会った人達とお話しをしている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園の行事、盆踊りなどの参加。自治会老人会など交流することに努めている。大家さんから、野菜・果物の差し入れあり。		

グループホーム 友宝(のどか)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で相談したり、他より、相談があれば積極的に対応している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員参加。意欲的な姿勢が評価内容から伺える。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね3ヶ月に1回の割合で実施。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	制度利用または、運営上の相談時に、区、市役所などに、行き、電話をしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会などに積極的に参加している		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内に置いては拘束、虐待の認識を持ち、入居者さんの安全性を重視した方向性でおこなっている。常に拘束にあたるかの管理者との話し合いでの結果を得ての実施。	○	研修会に参加予定。

グループホーム 友宝(のどか)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとり、対応している		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が話しやすい雰囲気を作り、いつでも相談や不満を言いやすい状態にするよう心がけている		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族での話し合い、広報でのお知らせ。突発的な事項に関しては家族への連絡・確認を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口のホーム内担当と外部機関の窓口を契約時にお知らせしている。また、集まりのあるごとに「なんでもお話しください。」と伝えて、話しやすい雰囲気を作っている。	○	家族会を9月20日実施予定。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、法人・ホーム管理者の合同会議などで、時間を作ったり、日々の仕事内で聞く努力をしている		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状況に応じて、勤務体制の調節を行っている。	○	比較的家族が来訪する土、日に管理者・主任等が出勤しているように調節していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	合同会議(法人・ホーム管理者)で検討している。		

グループホーム 友宝(のどか)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>初任者研修、外部研修、交換研修など、参加し、その情報を常にスタッフへ伝えている。</p>	<p>○</p> <p>内部研修、交換研修、外部研修予定あり。内部で1F・2Fとの交換研修をする。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ブロック・市・県・全国GH連絡会に参加している。</p>	<p>○</p> <p>交換研修の実施予定あり。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフを補充し、有休をとりやすくしている。歓送迎会や打ち上げなど行っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は合同会議、ユニットのカンファに出席し、また。ほぼ、毎日来訪し、対応している。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居後は本人の話・家族の不安などをなくすようにホームに来られたときには日常生活状態を説明し家族へもその都度安心してまかせていただけるようアドバイスをしている。利用されてからではないと分からない部分もあり日常の行動、言動、話し合いの中から、もとめているものを知る努力をつねに怠らない。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居者さんが安心して生活できることが家族の不安をなくすことだと思います。入居されてから、訪問されるたびに状況報告などお話しています。いつでも相談できるよう配慮している</p>	

グループホーム 友宝(のどか)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の相談に応じケアマネージャーが対応している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者の状況にあわせて、見学や、訪問また、家族が初日に1泊していただいたりしている。また、ご本人の納得の元でご入居いただいています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に家事を行ったり、くつろぎの時間に一緒に話をしたりできるよう心がけている。人生の大先輩として、時には友達として常にお互いが信頼し合える関係を築き上げている	○	新人スタッフなど全スタッフに、入居者もスタッフも笑顔で接するよう今後の研修、話し合いをしていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている		○	家族会、行事などを通して、今まで以上に行って行きたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している		○	入居時の不安が安心に変わると足が遠のいてくる家族もいらっしゃるが、行事などを通して、一緒に居られる時間を計画していきたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達からの連絡やご家族の訪問は入居者さんと同じように職員にとっても嬉しいことである。大いに歓迎している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の居室の訪問、同じ趣味、関心のある事柄を一緒にやっていたく。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今までのところ、必要とする経験はないが、お見舞いについて、経過の把握はしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフが代行代弁したり本人の意思を尊重できる。本人の意思に添いそれまでの生活に近い暮らし方ができるよう心がけている	○	日々の生活に変化があり、記録をとりながらも逃さないよう注意する。活動的な方は目に付くがおとなしい方は、みがさないよう心配り、声かけをする
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活習慣を大切に環境がかわっても尊重できるように手立てをうつ。家族などに話を聞き、なるべく細かい情報も把握するよう努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	家族などからの話や利用者の普段の様子を観察することなど日々の状態を把握するよう努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当制により、きめ細かな介護計画を作成しそれに基づいたケアプランの実施。話し合いをする		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の引継ぎやカンファレンス等、変化のあるごとに話し合いをし、状況に即したケアができるよう見直している。必要に応じてスタッフ、家族と話し合い計画の変更を行っている		

グループホーム 友宝(のどか)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入している。1日2回、引継ぎを行っている。日々の様子から個々の生活習慣や嗜好などを一目でわかる工夫をしている(特に新入居者様)		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	その時に応じて、ケアプラザ・ボランティア・サークル・消防署・警察・商店などに協力してもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	体調や状態に応じて他のサービスを利用できる体制をとっている(リハマッサージ・音楽療法など)		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じてお付き合いしている	○	行事のおさそい、運営推進会議のお誘いをしていく
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に各医療機関が訪問。提携病院の他、本人の症状にあった病院を紹介したり、家族の希望したい病院に受診できる		

グループホーム 友宝(のどか)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>スタッフ全員でその人に合わせたケアを話し合い、また、家族と相談して、引き続き取り組んでいきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>その都度その都度、何度も話し合っ、支援をしていく</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>えこひいきなく一人の人間として家族の一員として尊厳の気持ちをもって接している。記録はイニシャルなどを使用している。気がついて事は、カンファ、その場で、訂正するようにしている。</p>	<p>○</p> <p>トイレ、歯磨き、などの声かけ、プライバシーに関する言葉かけにもう少し注意をしていきたい</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人が何をどうしたいのかゆっくりと要望を聞きできる限り本人の意思に添えるようにする。本人の目線でゆっくり・はっきりした言葉で説明している。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>時間を自由に使っている。朝起床できない人、身支度がゆっくりに人、時間や決まりに縛られない生活を支援している</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>現状では訪問カットにしている。自身や家族が望まれる方についてはそのようにしていただく。</p>	<p>○</p> <p>お化粧品、マニキュアなどをする機会や時間をつくっていききたい</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備、切ったり洗ったりお茶を入れたり、味噌汁をよそおったり手助けしながら行っている。自由にできるようオープンにしている</p>	
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>好きな食べ物があれば一人だけでなくみんなで食べたり、飲める方は飲んでいただいている。おやつなど嗜好品は各々好きな時に楽しめるように利用者自身に管理していただいている。買い物ができる</p>	

グループホーム 友宝(のどか)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	声かけをしながらトイレ誘導をし、本人が自分の力で排泄できるようにしている。食前食後出かける前、失禁を少なくするためにトイレに座ってもらう		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入りたい人、シャワーだけの人体調や希望にあわせている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調にあわせていつでもベッドで休めるよう、部屋でくつろげる様にしている。夜も各自のスタイルで眠っていただいている		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	植物の世話、編み物をしたりする。散歩・ゲーム・歌・外出デー・行事・草取・食事の手伝い、掃除。洗濯物をたたんだりしながら会話を楽しむ。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が何をどうしたいのかゆっくりと要望を聞きできる限り本人の意思に添えるようにする本人の目線でゆっくり・はっきりした言葉で説明している使いたいときにスタッフやボランティアと一緒に購入するようにしている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族と自由に外出できる。スタッフが買い物に出かける際に一緒に同行していただいている。午前中に戸外へ散歩。個別に対応できる時は散歩に行っている。草取り・畑での収穫は自由にしてもらっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間を通して近隣の自然公園、お花見、お茶のみ、動物園、ドライブ、祭り、他の施設との交流、ウォーキングを行う。ボランティアさんの力をかりて支援している。外出デーを設けている		

グループホーム 友宝(のどか)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に用事がある。声が聞きたい等自由に電話することができる		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	普通の家のようにいつでも訪問しても良いことになっていて門限などもない。来客にはリビングまたは、居室へ案内し、ゆっくりお話できるようにしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険がない限りは、鍵をかけないケアに努めている。居室については、プライバシー保護のため入居者が勝手に入ってしまわれる方のトラブルを防ぐためにかける場合もあります。夜以外は鍵をかけない		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングに居ないときは居場所の確認。夜間は転倒の危険性がある場合は、センサーマットの設置をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	道具を使えなく怪我をする恐れのあるものは預かる。女性の場合、クリームや化粧水・石鹸飲んだり食べたりすることもある。保管場所を決めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	状況報告書を書いてもらい発生件数や内容を分析し一人ひとりのリスクにあわせ防止対策を打ち出す。勉強会を開いています。転倒、誤嚥は起こりやすいため特に気をつけている。一人ひとりがそれぞれの可能性があるためその方たちにはそれぞれの注意をはらっている	○	半年に一度ぐらいに事故防止の話し合いをしていく

グループホーム 友宝(のどか)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法を受講することの取り組みを実施している。通報訓練を行っている。	○	救急時の必要書類など1箇所にとまとめておく。救急時の報告書のマニュアル化をする。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回の避難訓練の実施。緊急時の電話連絡網作成		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時、その都度対応している	○	家族会を通して急変も起こりえる事を伝えたい
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルや特変事項など個人記録に記入し、話し合った結果なども伝達できるよう業務日誌に記入し、連絡し合っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬担当が管理把握し調整したりする		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多い物食事にヨーグルトを取り入れている。体操を行う。ゼリー。ポカリ、、麦茶など。排便チェック表で確認	○	研修を行い、安易に薬に頼らない方法で改善をしていく
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔衛生指導のもと、一人ひとりに応じたケアをしている		

グループホーム 友宝(のどか)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日30品目取れるよう献立作りをしている。嚥下能力に応じミキサー食、ソフト食、一口にカットする等工夫している。麦茶は常温でいつでも飲めるように切らさない。なかなか水分を摂取しない入居者様に言葉かけの工夫をして飲んでもらっている	○	栄養のホーム内研修をし、改善を図っていく
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	1ケア1手洗い、外出から戻ったら手洗い、消毒。エプロンは毎日取り替え、調理、掃除は専用エプロンを使用。時間ごとのタオル交換、清拭タオル消毒、Pグローブ使用。	○	10月より、ノロウイルス対策施行。初任者研修で徹底を図る。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	講習会を受講し、他のスタッフにも啓蒙し実践し、担当者を決めて定期的にチェックしている。賞味期限を守り、保存方法にも注意をはらっている。残った食材などには日付を入れるなど冷蔵庫温度管理、庫内の清拭。	○	台所の衛生管理の改善。遣いのこしの缶、瓶を空けたら、必ず日時を記入するようしたい
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	雑草をはやさないよう、草取りや花を植えたりしている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったりしている。季節に応じ、行事などのものを飾り楽しむ。特に夜間のテレビの音に注意をする		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置をしている。入居者の相性に応じて、誘導したり、くつろぎやすい空間を作っている		



グループホーム 友宝(のどか)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットの配置・高さ・安全性を考慮しチェストには、何が入っているか本人に分かりやすいようにシールを貼る工夫をしている。使い慣れた家具や趣味のものを思い思いに飾っていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓を開け、換気に気をつけている。特に暑い時期の温度管理に気をつけている		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりをつけてあり、余計なものを置かない。浴槽内に椅子を沈めて、自分の脚力で浴槽内から出られる。歩ける人にも車椅子の人にも十分に使いやすい環境になっている	○	浴室の環境を車椅子が安全に移動できるよう改善をしていく
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	声かけをし今、何をするのかを正しく伝え、間違わないよう、見守る。居室には表札。できることは自力でなるべくやっていたくよう心がけている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に畑を作り、収穫を手伝ってもらおう。お庭や洗濯干し場など自由に入出りできる	○	車椅子の人がテラスに出られるようにしていきたい。ちょっとお茶が飲めるよう工夫していく。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム 友宝(のどか)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

最後の生活の場として、グループホームは楽しいところである、社会の片隅で小さくなっているのではなく、1つ屋根の下でのび伸びと明るく暮らしていることをアピールし地域のかたがたの元気なお年よりの方に手伝いをさせていただき、一緒に話し、一緒にうたを歌ったり、踊ったり楽しむことができたと思う。せめて半年に1回ぐらい周りの掃除のボランティアがほしい。利用者を尊重しながら、職員もケアの充実に努めながら支援する事に喜びを見出しながら日々の生活に努めています。